

～発掘だより～

vol.11 2005.7



「勝瑞城」ってどんな城？



古い文献に記されている勝瑞城

古いと言っても江戸時代に書かれたものですが、物語や歴史書の中に「勝瑞城」のことが書かれています。それらを少し紹介したいと思います。

例えば、江戸時代の中頃に書かれた『^{なんかいつうき}南海通記』という物語の中にはこのように書かれています。

・ ・ ・ 此城は上代
より屋形構なれ
ば、方二町にして
土居堀一重也、其
内に樓十四五搦双
て、僅に五千余人
を以相守る、・ ・ ・

勝瑞城は立派な屋敷のような城で、200m四方ほどの敷地をもち、その周りには一重の土塁と堀があった。その中に高い建物を14・5並べて、5000人余りで守った。

また、江戸時代末に書かれた歴史書である『^{あわし}阿波志』には、このように書かれています。

南貞方に至る。北
馬木に至る。南門
西貞方小島の間
在り。・ ・ ・ (略) ・ ・ ・ 池を
穿つ三重。貞方、
吉成、住吉、音瀬、
矢上、笠木、高房等
皆羅城中に在り。

勝瑞城は、南は応神町貞方、北は馬木（今の勝瑞字西勝地）にまで広がっていた。南門は応神町貞方と小島の間であり、貞方、吉成（以上、徳島市応神町）、住吉、乙瀬、笠木（以上、藍住町）、北島町高房等はみんな城の中であつた。

このように、文献によって全く違うことが書かれています。また、昔の勝瑞城の姿を描いた絵図も残っていません。そのため、本当の勝瑞城の姿は今のところ全く分かっていないのです。



「勝瑞城」とは、どんな城だったのでしょか？



それを解明するために今、発掘調査が行われているのです！！

勝瑞の発掘調査が始まったのは平成6年のこと。その頃はまだ見性寺の境内となっている部分だけが勝瑞城だと考えられていました。



勝瑞城跡



勝瑞館跡会所

しかし、調査が進むにつれ、その南の方に大きな館跡があることが分かってきました。そして、その館跡は勝瑞館跡と名付けられ、勝瑞城跡とともに「勝瑞城館跡」として国史跡指定を受けました。

勝瑞館跡は、はじめは福井県にある一乗谷朝倉氏遺跡の朝倉館のように単独の四角い区画の館ではないかと考えられました。



朝倉館（福井県）



勝瑞館跡の濠

しかし、さらに調査が進むと、濠の規模や、予想と違った濠の存在、周辺の調査の積み重ねから、もっと大きな範囲で勝瑞城を考える必要があることが分かってきました。



たけだしやかたあと 武田氏館跡（山梨県）



ねじょう 根城（青森県）

もしかすると、こんな形のお城かもしれません。



図面および写真は
 ・『文化財探訪クラブ 6 城と城下町』山川出版社
 ・『越前朝倉氏・一乗谷・眠りからさめた戦国の城下町』福井県立一乗谷朝倉氏資料館から一部引用いたしました。

発掘調査によって、謎のベールが開かれようとしています。

(t-shigemi)

お知らせ

今、守護町勝瑞遺跡東勝地地点第8次発掘調査が行われています。現在の調査では、勝瑞城を考える上でたいへん、たいへん重要な遺構が発見されています。9月には現地説明会も予定していますので、ご期待ください。

また、発掘調査の様子はエーアイテレビの番組で放送されています。是非ご覧ください。



藍住町教育委員会社会教育課 勝瑞城館跡発掘現場事務所

お問い合わせはこちらへ！！

TEL&FAX：(088)641-3466

E-mail：syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp

発掘調査の様子なども見られます！！

URL：http://www15/ocn.ne.jp/~shouzui/

